

Coxeter 群の“同変 Schubert calculus”と hook 公式の拡張

成瀬 弘 (岡山大・教育)*

概 要

ここでは、一般の Coxeter 群に対して同変 Schubert 類を定めて、その Schubert calculus を考える。応用として、hook 公式の拡張を得る。

1. Coxeter 群のルート系

文献 [3] に従って、Coxeter 群のルート系を定める。ここでは簡単のため S は有限集合と仮定するが、一般の場合にも拡張できる。

$V = \mathbb{R}^{|S|}$ 上の標準双線形形式 $B(\cdot, \cdot)$ を基底 $\{e_s\}_{s \in S}$ に対して、

$$B(e_s, e_{s'}) = \begin{cases} -\cos\left(\frac{\pi}{m_{s,s'}}\right) & m_{s,s'} < \infty \\ -1 & m_{s,s'} = \infty \end{cases}$$

で定める。ここで $m_{s,s'}$ は、 ss' の位数とする。これを用いて、 W の標準表現を $s \in S, x \in V$ に対して、 $\rho(s)(x) = x - 2B(x, e_s)e_s$ で定めることで W の表現 $\rho: W \rightarrow GL(V)$ が得られる。この作用を $w(x)$ で表す。各生成元 $s \in S$ の共役類ごとに、実数 $p_s > 0$ を用意して、単純ルートを $\alpha_s = p_s e_s (s \in S)$ で定める。ルート系を $R = \{w(\alpha_s)\}_{w \in W, s \in S}$ とし、そのうちで R^+ を正ルートの集合とする。また $v \in W$ に対して、 $R_v := R^+ \cap vR^-$ と定める。 $v = s_1 s_2 \cdots s_\ell$ を生成元 S による最短表示とし、 $\beta_k := s_1 s_2 \cdots s_{k-1}(\alpha_{s_k}) (i = 1, 2, \dots, \ell)$ とおくと $R_v = \{\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_\ell\}$ となる。単純コルートを、 $\alpha_s^\vee = \frac{2\alpha_s}{B(\alpha_s, \alpha_s)}$ と定め、 $\beta = w(\alpha_s)$ のとき、 $\beta^\vee = w(\alpha_s^\vee)$ と定める。基本 weight $\Lambda_s \in V^*, (s \in S)$ を、 $\langle \alpha_s^\vee, \Lambda_{s'} \rangle = \delta_{s,s'}$ で定める。

2. 同変 Schubert 類、Chevalley 公式

Goresky, Kottwitz と MacPherson によるトーラス同変コホモロジーの局所化定理で、固定点での同変コホモロジーの直積の部分空間に埋め込むことができる。cf. [2]。この類似物を Coxeter 群でも構成できる。

命題 1 (Billey 型公式) v の最短表示 $v = s_1 s_2 \cdots s_\ell$ と w に対して、

$$\sum_{(j_1, j_2, \dots, j_r) \in J^w} \beta_{j_1} \beta_{j_2} \cdots \beta_{j_r}$$

は、最短表示の選び方によらず v と w で定まる。ここで J^w は、 $1 \leq j_1 < j_2 < \dots < j_r \leq \ell$ で、 $s_{j_1} \cdots s_{j_r} = w$ が最短表示となる列 (j_1, j_2, \dots, j_r) の全体。

2010 Mathematics Subject Classification: 20F55, 05E15, 14N15

キーワード: Coxeter group, Schubert calculus, equivariant cohomology, hook formula

* 〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学大学院教育学研究科

e-mail: rdcv1654@cc.okayama-u.ac.jp

web: <http://ed-www.ed.okayama-u.ac.jp/~suugaku/naru/>

これを $\xi^w|_v$ と表す。これにより、 $\xi^w : W \rightarrow S_{\mathbb{R}}(V)$ が定まる。この命題の証明は、Stembridge による Coxeter-Yang-Baxter 関係式から導かれる。cf.[1],[7]。

$\gamma \in R^+$ と $w, v \in W$ に対して、 $v = ws_\gamma$ かつ $\ell(v) = \ell(w) + 1$ であることを $v \succ^\gamma w$ で表す。($\gamma = w(\alpha_s)$ のとき、 $s_\gamma = wsw^{-1}$ とおく。)

定理 1 (同変 Chevalley 型公式) $s \in S$ と $w \in W$ に対して、

$$\xi^s \xi^w = (\xi^s|_w) \xi^w + \sum_{v \succ_w^\gamma} \langle \gamma^\vee, \Lambda_s \rangle \xi^v$$

3. hook 公式の拡張

$v \in W$ に対して、区間 $[e, v) = \{w \in W \mid e \leq w < v\}$ 上の関数 $f : [e, v) \rightarrow S$ で次を満たすものが存在する。 $\forall w \in [e, v)$ について $\xi^{f(w)}|_v - \xi^{f(w)}|_w \neq 0$

これを用いて、 $F(v, w, f(w)) = \xi^{f(w)}|_v - \xi^{f(w)}|_w$ と定める。

定理 2 $v \in W$ に対して次が成立する。

$$\prod_{\beta \in R_v} \frac{1}{\beta} = \sum_{v=v_0 \succ_{\gamma_1} v_1 \succ_{\gamma_2} v_2 \cdots \succ_{\gamma_\ell} v_\ell = e} \prod_{i=1}^{\ell} \frac{\langle \gamma_i^\vee, \Lambda_{f(v_i)} \rangle}{F(v, v_i, f(v_i))}$$

W が Weyl 群の場合は [4] に既出。定理 2 の等式は、Parabolic quotient W/W_P に対しても作ることができて A 型の極大 Parabolic 部分群の場合には通常の hook 公式となっている。cf.[5],[6] また、区間 $[w, v]$ で同様の公式を作ると skew Young 図形の hook 公式が作れる。

4. K -theory 類似

cohomology の代わりに K -theory にあたるものを同様に考えることができる。但し、この場合には整数性が必要となり Coxeter 群は、結晶型のものに限られてしまう。 A 型と D 型のグラスマンの場合については K -theory 版の hook 公式を得る。

参考文献

- [1] S.Billey, Kostant polynomials and cohomology ring for G/B , Duke Math. J. 96 (1999), 205–224.
- [2] M.Goresky, R.Kottwitz and R.MacPherson, Equivariant cohomology, Koszul duality, and the localization theorem, Invent. Math. 131 (1998), 25–83.
- [3] H.Hiller, Geometry of Coxeter groups. Pitman 1982.
- [4] L.C.Mihalcea, On equivariant quantum cohomology of homogeneous spaces: Chevalley formulae and algorithms. Duke Math. J. 140 (2007), 321–350.
- [5] K.Nakada, Colored hook formula for a generalized Young diagram. Osaka J. Math. 45 (2008), 1085–1120.
- [6] H.Naruse, Schubert calculus for Coxeter groups and hook formula, in preparation.
- [7] J.Stembridge, Coxeter-Yang-Baxter Equation? preprint.